

# 呉越同舟

① 善く兵を用ゐる者は、譬へば率然のごとし。  
上手に 使う 例えは ようだ  
である。副詞

② 率然は、常山の蛇なり。  
である。

③ 其の首を擊たば、則ち尾至り、其の尾を擊たば、則ち  
が 助けに来て 攻撃し たら が 助けに来て 攻撃し たら  
首至り、

④ 其の中を擊たば、則ち首尾俱に至る。  
ほど 攻撃し たら と ともに 助けに来る  
と

⑤ 敢へて問ふ、「兵は率然のごとくならしむべきか。」と。  
敢えて 尋ねます 兵隊 ように せることができます  
である そもそも の國の の國の 互いに憎んでいるのだ

⑥ 曰はく、「可なり。夫れ吳人と越人とは相悪むなり。  
言うことには 可能 である そもそも の國の の國の 互いに憎んでいるのだ  
それら ならば それらが互いに救う せることができます

⑦ 其の舟を同じくして済るに当たりて、  
乗る 川を 渡る あたつ

⑧ 風に遇はば、其の相救ふや、左右の手のごとし。「と。  
突 遭つた ならば それらが互いに救う こと 親身になつて助けるのだ。  
それら 乗る 川を 渡る あたつ

(口語訳)  
呉越同舟

兵士の使い方が巧みな者は、たとえば率然のようなやり方をする。率然というのは、常山の蛇のことである。その頭をたたくと尾が助けに来、その尾をたたけば頭が助けに来、その中ほどをたたけば頭と尾がともに助けに来る。

あえてお伺いいたします、「兵士たちは率然のようなさせることができるのですか。」と。答えて言う、「できる。そもそも呉の国の人と越の国的人は互いに憎み合っている。同じ舟に乗つて川を渡つていて、突風に出くわしたら、お互ひ助け合うことは、左右の手が互いにかばい合うようなものである。」と。